

スクールソーシャルワーカー(SSW)による支援活動

～ 子どもたちが置かれた様々な環境へ働きかける支援 ～

高知市のスクールソーシャルワーカー(SSW)

高知市では、平成16年度から進めている『不登校を生じさせない学校づくり』の取り組みの一つとして、平成20年度にスクールソーシャルワーカー活用事業を導入し、本年度は7人のスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置しています。

スクールソーシャルワーカー(SSW)とは

スクールソーシャルワーカー(SSW)は、児童生徒の問題行動等の背景にある心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれているさまざまな環境の問題に対して、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いてはたらきかけ、児童生徒及びその保護者が抱えている課題解決を図る役割を担っています。

具体的には

- ☆ 子どもやその家庭の日常を把握している教職員と丁寧に検討を重ね、問題の背景にあるものを分析し、解決方法をいっしょに探します。
- ☆ 経済的に困窮している家庭に、福祉で受けられるサービスを紹介します。
- ☆ 本人や保護者に治療の必要な病気がある場合には、円滑に病院受診ができるように援助します。
- ☆ 地域の民生委員や子ども家庭支援センター、保健所、児童相談所など関係機関とのネットワークを活用して支援します。
- ☆ 地域のさまざまなサービスを紹介します。

スクールソーシャルワーカー(SSW)が支援に関わることで改善した事例

不登校となり家庭に引きこもって、学校からの連絡は拒否され、訪問しても全く会えなくなっていたケース。

スクールソーシャルワーカー(SSW)が粘り強く訪問を重ねて関係づくりを行った結果、教育研究所につながることができ、高校進学をはたすことができました。

小学生の頃から不登校になり、中学校入学後も全く登校しない状態が続いていたケース。

スクールソーシャルワーカー(SSW)と教育研究所の担当が連携して短期目標を設定し、その目標を丁寧にこなしていくことで、学校への別室登校ができるようになった。

学校との関係がうまくいっていないケースではスクールソーシャルワーカー(SSW)が学校職員でないという立場で面会できる場合があり、保護者の思いを聞き取りながら学校との橋渡し役になることができました。



スクールソーシャルワーカー（SSW）の工夫とアイデア

～ 子どもや家庭と関わる際のポイント ～

スクールソーシャルワーカー（SSW）が、活動するうえで心がけていることや、これまでの支援でうまくいった方法をご紹介します。支援の参考にしてください。

子どもとの関わり

- ・ 子どもとつながれるツール（ゲーム、音楽）を探る。
- ・ 子どもの興味・関心（アニメ・ゲーム、音楽の趣味等）、抱える悩みや将来の夢、言葉にできない声に寄り添うことから二者関係の構築を図る。
- ・ 校内で一人である子どもには声をかけていく。
- ・ 進路保障はSSWの大事な役割。中学3年生には学習支援が有効。
- ・ 子どもや保護者に自分のことをたくさん語ってもらうことを目的に関わっているため、子どもや保護者が発する言葉をいつも肯定的に受け止めるようにしている。
- ・ 子どもと関わる時は、楽しい会話をすることを意識している。

家族・家庭との関わり

- ・ 家庭訪問は、その家庭や保護者の都合や要望を大事にし、決して無理な注文をしないように心がけている。
- ・ 「お会いできてよかった」等の謝意をきちんとお伝えする。
- ・ 学校や行政の人に訪問されるのを近所の人に見られたくない方もおられるので、訪問の仕方に配慮する。（外で名前を呼んだりしない）
- ・ 自宅で子どもの話をするのを嫌がる（2階で祖父母が聞いている等）方もいるので、別の場所で話をするなど配慮する。
- ・ 面会困難な家庭への訪問の際は、手紙を用意するなど間接的アプローチでスクールソーシャルワーカーの存在を示し、足跡を残す。
- ・ 学校行事に参加した時は、気になっている保護者や子どもには積極的に声をかけていく。
- ・ 保護者との連絡がなかなか取れない場合は、兄弟姉妹の関係も視野に入れての対応を考え、そのなかで家庭の生活の様子（仕事から帰るのは何時ごろか、休日は何曜日か）を把握する。
- ・ 母親とつながるために、母親の得意な事（例えば、よく利用する店のポイントカードの作り方等）を話題にして、あまり話さない母親にたくさん話してもらえようようにし、子どものことの話が出るようにした。

欠席の状況が気になったり、養育の状況が心配されたりする子どもや家庭がありましたら、教育研究所もしくは拠点校のスクールソーシャルワーカー（SSW）にご相談ください。

